



さゆりっ子



就学を見据えた幼児教育 ～分散型参観日 倉田先生の講話より～

資質・能力の3つの柱
保育の5領域
幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』

→ 主体的/自発的に、
学び・遊び・自己を発揮する



幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』は、大事にしていきましょう、遊びを通して見られるといいかなくらいに考えていただきたいと思います。

小学校でも授業の進め方が変わってきました。グループワークが増え、教えてもらった知識を伝え合う、教え合う、学び合う活動がたくさん取り入れられてきています。

保育所では

保育所での実践例
元々の予定は散歩でしたが、今日は雨…



今日の天気はー？

あめー！

お散歩はどうすればいいとおもう？

傘をさすー！

少しだけだから傘いらなーい！

体育館であそびたーい！



保育所での実践例
話し合い、傘をさして散歩に行ってきました



散歩中に、Aくんが発見をしてたね

なんかザーザー雨かと思ったら傘さしたらパラパラ雨だった

思ったよりパラパラ雨だったって思ったんだね！他にも何か気づいた人はいるかな？

かたつむりいたー！

水たまりでぬれたー！



このような話し合う活動を通して、先ほどの「10の姿」を意識して子どもたちをとらえていきましょうとなってきています。ここで大切になるのがその過程になります。

保育所での実践



過程に注目する

- ・何に気づいたかな？
- ・何に興味を持ったかな？
- ・どんなことをしたかな？
- ・どこが難しかったかな？
- ・どこが簡単だったかな？

→ 主体的/自発的に、
学び・遊び・自己を発揮する



さゆり幼稚園でも一番大切にしているところです。遊びを通して様々なかかわりをしていく子どもたちの姿をラーニングストーリーを通してご家庭と共有しています。

では「親としては」どんなことを大事にしていったらよいのでしょうか。

成功体験を小さくたくさん作る



褒める

すごいね
かっこいいね
素敵だね
面白いね



受け止める

そう思ったんだね
そこ気付いたんだね
いい考えだね



「教える」を減らす
「引き出す」「一緒に考える」を増やす



確かに…なんてだろう？

車がさ、間違えてさ、ぶつかってさ、危ないからじゃない？

閉めないで冷たくなっちゃうかも
しれないよ！

あーそうかもしれない！
ママの考えはー



特に「受け止める」を意識したいですね。つい忙しいとフォローできずに、チャンスを逃しがちになってしまいます。そして「教えるを減らす」と結構子どもたちの中には答えになるものを持っていて話をしてくれるときもあります。そんなときも絶好のフォローのチャンスですね。

そしてまず育てたい力は

まずはこの力

「ヘルプサイン・援助要請」を出せる力

これどうやるの？

ここまでできたけど、ここからわからない

受け止める

先生、これ合ってる？

ちゃんと聞きに来てくれてありがとうねえ

確かにここ難しいんだよねえ

聞く内容が具体的になる程、良いでしょう。頑張り屋さん、真面目な子ほど3・4年生で疲れてしまうなんてこともありますね。まずはこの困ったときにどうするか、できるようになることで“安心感”が生まれ、もう少し頑張ってみよう、惹いては自尊心、自己肯定感を高めていくことにつながっていきます。

目の前のお子さん、どれもその子の大切な姿です。温かく見ていきましょう。

自分の世界で楽しもう



先日の参観日の様子です。

ハロウィンの壁面制作に取り組みました。

前日に切った折り紙をのりで貼った。貼るパーツが以前より多かったので、集中力が持つか？と思っていたが、端から敷きつめる子、まばらに置いて白いところをなくしていく子などひとり一人が個性的な貼り方で埋めることができた。のりのつける量も『丁度いい』を考えられる子が増えてきていて、成長を感じることができた。

(担任のドキュメンテーションより)

よ〜く写真を見てみるとひとり一人の折り紙の貼り方が見事にちがっているのがわかりますね。折り紙を貼ろうとしている子どもたちの手の動き、目線からも自分の作品づくりに入り込んでいる様子がしっかりと伝わってきます。担任もパーツの多さにちょっと不安を感じていたが、そんな心配を吹き飛ばすように熱心に取り組んでいます。こうやって自信を持って自分の作品に向き合えるのは子どもの過ごしてきた環境に由るところがとっても影響しています。

そして倉田先生もお話されていた「過程に注目する」が大切ですね。「きれいに隙間なく一生懸命、色紙が貼れたね。今まで一番丁寧にできたね。」「ジャコランタンの顔が怖いよ〜。」子どもたちと作品を見ながらそんな会話が聞こえてきそうです。子どもたちもニコニコしながら「え〜とね、」なんて作品の自慢話をしてくれると思います。子どもの成長を楽しみたいですね。

「歴史は韻を踏む」 磯田 道史 (歴史学者：子ども時代、古墳を自分で作ってしまった)

今の時代、江戸的な多様さ、価値観の多様さが必要だと思います。

僕は、「江戸の道楽」っていうのがすごい好きなんです！道楽の精神っていうのは無償の遊戯性で、必ずそれで何かもらえるかどうかは期待してないんです。実は明治に近代化できたのは、江戸時代があったから。あの時代は、異様に多様な知識を持っています。例えば、筆の真ん中に、命毛になるイタチの毛がありますが、イタチの毛を集めるだけの職人がいました。イタチの毛について語らせたら、もうすごいやつが、その分野にはいるわけです。日本一のイタチ毛を立てる筆をつくるからっていうことで、彼は満足しているんですよ。みんなにもすごい認められている。あいつのつくる筆の真ん中のイタチ毛すごい！っていうので、誇りに思ってるわけですね。明治以降の、あの力強かった日本っていうのは、それが各分野に全部ありました。江戸というゆりかごがあったんです。

幼児期は大きなゆりかごでありたいですね。たくさん、たくさん吸収できる素晴らしい時間です。